

平成 22 年度全国大会 土木学会百周年記念事業キックオフ討論会 「土木」の原点と百周年

2014年に、土木学会は創立百周年を迎える。土木学会では、百周年を迎えるにあたり、これからの土木が何をビジョンとし、何を為すべきかを考えるための「百周年記念事業」を、今年から2014年に向けての五か年の間に、精力的に持続的に展開していくことを予定してい

る。本討論会は、まさにそうした諸事業の「キックオフ」として開催するものであり、本年度の全国大会初日の午後200名を超す参加者を集めて開催された。また、こうした主旨から、本討論会は土木学会百周年記念事業準備委員会の主催、ならびに、全国的な議論を喚起

することを企図し、全国各支部と連携しながら毎年土木の日を推進している土木学会土木の日実行委員会が共催する格好にて開催された。

本討論会は、「土木学会の「百周年」に向けて、何をすべきか?」と題した第一部と、「「土木」の原点を考える」と題した第二部とから構成されるものとして開催された。

第一部は、百周年記念の一連の諸事業の文字通りの皮切りとして、「土木学会の百周年」にあたって何が求められているのかを議論すべく、冒頭にて百周年記念事業準備委員会から開会挨拶がなされ、その上でこれまで百周年記念事業準備委員会で議論されてきた内容が報告された。この中で、100周年記念事業では、本部事業として、2014年での記念式典や記念出版に加えて、一般公衆に土木の取り組みを訴求することを意図した土木に関わる各種展覧会や討論会・シンポジウムを、土木の日や関連委員会の諸活動と連携しながら進めていくことが予定されていることが解説された。またそうした本部事業に加えて、全国の各支部をはじめとした土木学会内外の各種組織・団体から、百周年記念事業を「公募」して実施していくことを予定している旨が説明された。その上で全国各支部から、百周年記念事業としてどのような事業を為していくべきかについての発表がなされた。その中で、一般市民の土木に対する理解・認識を深めていくための様々な取り組みの必要性が、繰り返し主張された。そのために、テレビや映画等のマスメディアの活用、市民参加型のシンポジウムや展覧会の開催を、一般社会に向けて展開していくことの重要性が論じられた。またその議論の中で、かつての土木事業は固い岩盤や河川の急流といった物理現象がその事業を通して公益増進の大きな妨げとなっていたが、現在は、世論における事業の無理解というものが、その公益増進の大きな妨げになっているという点が改めて議論され、そうした無理解の問題を緩和していくためにも、上記の様な遠心的なメディア活動の中心に、適切な思想を据えた研究・言論活動を展開していく求心的な諸活動を定位することの必要性が議論された。

以上の議論に続く第二部では、これから5年間かけて継続していく様々な諸議論の第一弾として、「土木」を学会として改めて定義付けることを念頭におきつつ、「土木の原点を考える」と題した討論会を開催した。第二部ではまず丹保憲仁元土木学会会長、ならびに、同じく相原英郎元土木学会会長から、「土木の原点」に関するご講話を頂いた。丹保先生からは、まず、土木という言葉は築土構木からの言葉である一方、英語ではCivil Engineeringであり、このCivil Engineeringが何であるかを考えることこそが、土木の原点であろうという点が指摘

された。その上で、我々人類の文明がどのように展開してきたのかを、前近代、近代と時代を経て概観した上で、これからの土木はどうあるべきなのか、21世紀、22世紀の文明がどうあるべきなのかを、参加者各位に問かける格好でその講話を取りまとめられた。続く相原元会長からは、中村哲氏という一人の医者が為した実践についてのご発表が為された。中村氏は一人の医者でありながら、30代後半にアフガニスタンに派遣され、現地の人々に様々な医療行為を行っている内に、抜本的に人々の健康を維持、増進させるためには、人々の住まう環境そのものが衛生的であることが何よりも重要であることに思い至ったという。そして「100の診療所よりも一本の用水路の方が有用だ」という言葉と共に、土木工学についての知識を学んだ経験が無いままに、用水路整備という土木の仕事に従事された。こうした一連の物語を語ることを通じて、世のため人のためという思いの下、織りなす営為こそが、土木の原点であるに違いないと暗示された。

こうした土木の原点に関わる二つの講話を受け、土木界の外側の一般社会の視点から土木の重要性を取り上げ、小学校教育で土木学習を展開されておられる新保元康山の手南小学校長、ならびに、土木界と一般社会との接点のコミュニケーション活動を種々に展開されている大成建設の高橋薫氏を交え、土木の原点に立ち返り、一般の人々の幸福と文明の在り方に思いを馳せながら為すべきこれからの土木の在り方についての議論が展開された。

(百周年記念事業準備委員会幹事 藤井 聡)



百周年記念事業キックオフ討論会